

中央手術部

1. スタッフ

部長（教授）	遠藤 俊輔
看護師	48名
看護師長	大塚 明希
主任看護師	海谷 晃代
	野田 幸代
臨床工学技士	5名
技師長	百瀬 直樹
薬剤師	1名

2. 実績・クリニカルインディケーター

1) 当センター開設以来の、年間手術件数の推移をグラフ1に示す

・総手術件数 7606件

（2023年と比較して53件の増加）

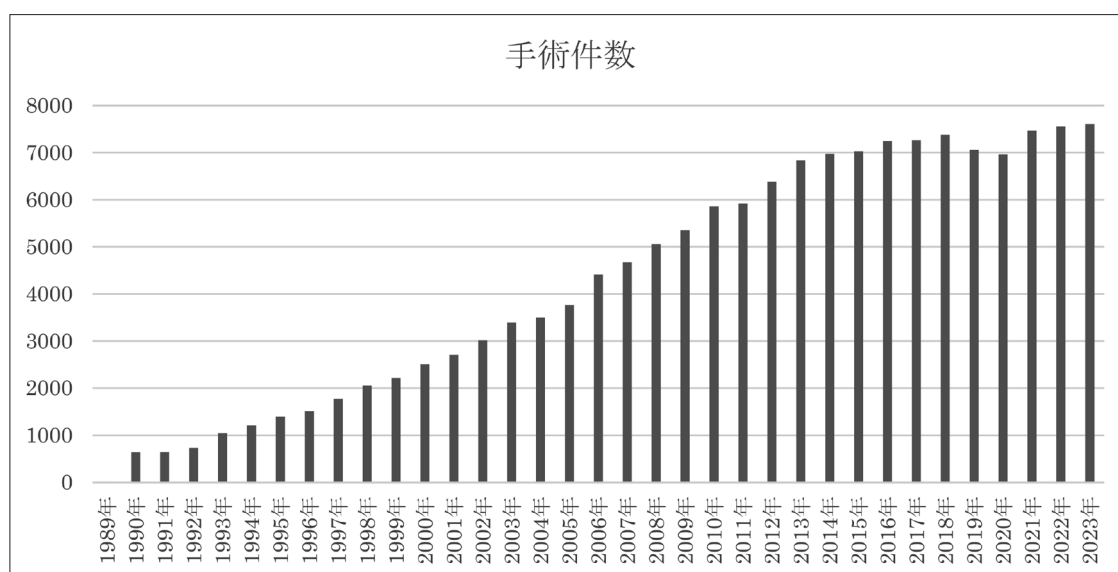
・麻酔科管理症例 5725件

・全身麻酔症例 5456件

2) 中央手術室 運営の実際

2023年の実質稼働手術室数は17室（中央

グラフ1：当センター開設以降 年度別 手術件数の推移



手術部13、日帰りセンター手術室3、産科病棟1）であった。

新型コロナウイルス感染症の流行も下火となり、以前のような手術の制限は必要とされなくなった。しかし、手術室看護師不足が続いており、予定手術患者の入室が準夜帯にずれ込む事態も発生しており、増加する緊急手術への対応と併せて、大きな課

題となっている。対策として、2023年後半には、一般病棟、救命救急センター、ICU/EICUから、期間限定で応援の看護師を手術室に配置し、何とか手術件数を維持することに成功した。しかし、産休/育休による離脱、年度途中の退職に起因する人員不足、新人看護師への教育におけるスタッフの負担軽減の有効な対策はなく、問

題解決には未だ至っていないのが現状である。なお、看護師の業務負担を軽減すべく、タスクシフト（中央材料室、清掃スタッフ、ナースエイドの勤務時間延長/業務内容の拡大）を模索しているが、費用対効果の問題もあり、更なる検討が必要である。

また、中央手術室の効率的な運用（手術室看護師の負担軽減と中央手術室7号室の有効利用）を目的として、より多くの帝王切開を4B（産科病棟）手術室で、4Bの看護スタッフが中心となっていくことを検討している。ただ、2024年度中に無痛分娩を開始することから、4B病棟スタッフと麻

酔科医師の負荷が増大するとの懸念もある。安全な手術/麻酔業務の遂行には、看護スタッフ/麻酔科医師数の見直しも不可欠であろう。

働き方改革の要望を満たした勤務体制の確立と、増加する一方の手術件数に対応するために、各科の手術枠の利用状況を考慮して、枠の見直しを進めると同時に、手術患者の入退室、部屋の準備、麻酔の導入/覚醒の迅速化などにより、手術室の有効利用ができるよう、継続して模索している。なお、曜日ごとの手術室の各科への割り振りを表1に記した。

表1：週間手術枠割当表（2024年5月）

曜 日	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日	
時間帯	am	pm	am	pm	am	pm	am	pm	am	pm
第1列	外 科	外 科	外 科	外 科	外 科	外科/形成	外 科	外 科	外 科	外 科
第2列	外 科	外 科	泌尿器科	泌尿器科	外 科	外 科	外 科	外 科	外 科	外 科
第3列	外 科	外 科	泌尿器科	泌尿器科	外 科	外 科	呼外	呼外	外 科	外 科
第4列	呼外/外科	耳鼻科/外科	整形外科/心外/脳外	整形外科/心外/脳外	耳鼻科	耳鼻科	耳鼻科	耳鼻科	呼外	呼外
第5列	耳鼻科	耳鼻科	脳外科	脳外科	耳鼻科	耳鼻科/形成	脳外科	脳外科	整形外科	整形外科
第6列	呼外	呼外	循環器	循環器/皮膚科	口腔外科	口腔外科	婦人科	婦人科	整形/小児外科	耳鼻科
第7列	婦人科	婦人科	婦人科	婦人科	形成	形成/皮膚	呼外	婦人科	泌尿器	泌尿器
第8列	心外/泌尿器	心外/循内	小児外科	小児外科/整形	心臓外科/形成	心臓外科/皮膚	血液/腎内	泌尿器科	心臓外科/循内	心臓外科/泌尿器
第9列	心臓外科	心臓外科	心臓外科	心臓外科	心臓外科	心臓外科	心臓外科	心臓外科	心臓外科	心臓外科
第10列	心臓外科	心臓外科	泌尿器/形成	整形/形成	心臓外科	心外/形成	心臓外科	心臓外科	心臓外科	心臓外科
第11列	産科				口腔外科		産科			整形外科
第12列	緊急	緊急	緊急	緊急	緊急	緊急	緊急	緊急	緊急	緊急
第13列		循内	脳血管内治療	脳血管内治療				脳血管内治療		脳血管診断
外来1	眼科	眼科	眼科	眼科	眼科	眼科	眼科	眼科	局所麻酔	眼科
外来2	局所麻酔	局所麻酔							局所麻酔	泌尿器
外来3										

3. 2024年 診療目標

1) 基本方針

1. 良質な手術医療の提供
熟練性・連携性・企画性及び行動力
優れたチームとしての手術医療を展開する。
2. 安全性の高い手術医療の展開
高度かつ細心の危機管理能力に裏付けられた安全性の高い手術医療を確保する。
3. 手術医療需要増大に対する積極的な対応
効率性向上によって質・量の向上を
両立させた手術医療を提供する。

2) 具体的活動

1. 手術利用率を向上し、各診療科の需要に対応する。
 - 1) 手術実績から、手術枠の見直しを行う。
 - 2) スケジューリングに関する現状調査を実施し、課題を明らかにする。
2. 手術室の稼働状況から、稼働率を上げるための業務委譲による効果的な人員配置を行う。
3. 手術医療安全対策を励行し、安全な手術医療を提供する。
 - 1) 確実なサインイン・タイムアウト・サインアウトを実施
 - 2) 周術期感染予防策の実施
 - 3) 臨床工学部による機器管理の実施
 - 4) 災害対策訓練の実施
 - 5) 学会・研究会・研修などへの積極的参加、手術医療に関わる専門的知識・技術の向上

麻酔科 大塚祐史